

植生回復と荒廃した歩道の補修

十和田八幡平国立公園八幡平地区パークボランティア「ヒナザクラ会」

岩手県

私ども十和田八幡平国立公園八幡平地区パークボランティア「ヒナザクラ会」が日常活動しております八幡平は標高 1、613m と高さはあまりありませんが緯度の関係では中央アルプスの山々の 2、500m 級以上の山岳に匹敵する環境にあります。

国立公園としては十和田国立公園（昭和 11 年指定）に付属する形で昭和 31 年に追加指定され、その面積は 40、491ヘクタール（岩手山・秋田駒ヶ岳・田沢湖含）となっております。

私どもの活動はその山岳国立公園を環境省と協力しての維持管理をボランティアとして支える事にあります、活動内容としては多岐にわたり、登山道整備・植生の維持・侵入外来植物の駆除・公園利用者への啓蒙及び自然観察の解説などによる国立公園の利用推進・地元小中学校生徒に対する社会科授業への支援活動等となっております。

そして、この山岳公園の環境は東北の奥地に有りながら、頂上直下まで山岳道路が開通しており、頂上まで数十分、山頂周辺の景勝地を周遊するのも 1～2 時間程度と遊歩道も整備され快適に散策が可能となっております。

然し乍ら、それが結果として幾つかの問題も起こしております

※ 厳しい山岳でありながら軽装での入山者の増加

※ 自然環境の維持に無関心な入山者の存在

※ カメラマンの無節操な行動

※ そして近年の登山ブームによる熟年登山者（特に女性）の増加

等です、これによって高山植物という守るべき植生の崩壊などが現れている現象がみられております、と、同時にこの八幡平の核心部は観光地化されておりますが一步そこを離れると依然厳しい山岳地帯となっているのですが、登山案内書等には簡単に楽しめる山となっており、核心部を離れた登山道等が整備されていない等の苦情が沢山ある事にも困惑しております、私どもとしては当然と思う泥まみれになって歩く山道もそういう方々にとっては納得のいかない山道なのかもしれません、又自然観察にも興味を持ち色々と質問される方も増えております、それら様々な要望に応えるのは大変な苦勞となっております。

今回の助成のお願いにはこのような問題を幾つか解決できればとの思いが込められております。

平成25年度

1. 登山道の整備

核心部は担当県の予算処置もあり整備や補修も進んでいますが、一步そこを離れると荒れた山道がそのまま存在しています。



整備されている核心部



今回補修の荒れた山道

しかし、最近の登山者の一部にはそこも整備されていると誤解して入山、靴や衣服が汚れたと苦情を持ち込む方も増えており、困惑しておりますが行政にはそこまでの予算は無くそのまま放置されております。

そんな時、岩手県側山頂に設置されていた展望台が25年に亘る風雪に耐えかね老朽、解体新築をせざるを得なくなりました、そこで一昨年岩手県は展望台を解体、私どもはこの廃材を利用し荒れた山道の補修を考え、廃材の無償払い下げを申請、払い下げを受けました。

今回の貴ファンドへの申し込みは、この廃材の有効利用への活用です、廃材の敷設のためには固定用の鉄筋・番線等が必要であり、廃材敷設のために登山道の掘削整地も必要です。



固定用番線・鉄筋



掘削作業及び杭打工具

又、廃材の搬送や番線結束の工具も必要となります。



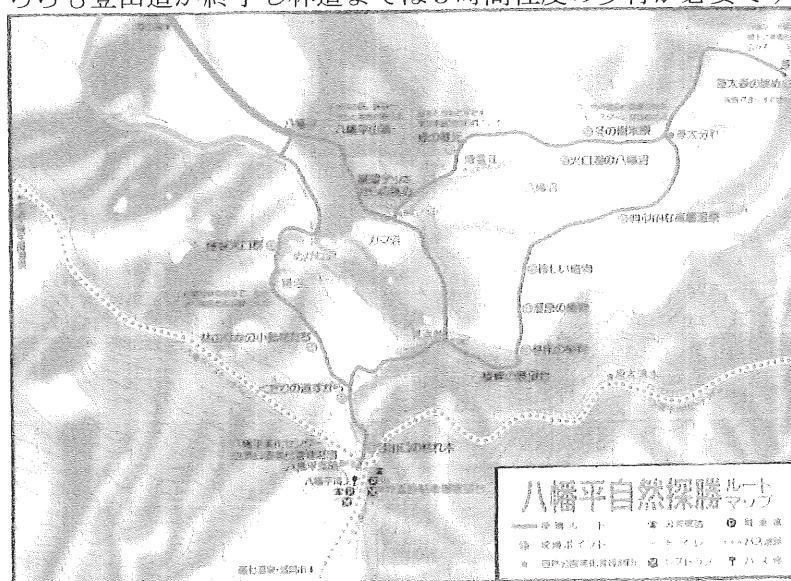
結束・杭打工具



搬送荷車（別注パンクしないタイヤ付）

これらの購入資金には貴ファンド殿のご協力が不可欠でした。

実際の作業は、八幡平山頂より草の湯コースと呼ばれる（下図の左上部・赤線は核心部・破線の太い線は自動車道）登山道を約2 km下がった間の区間です、この中の平成25年度に廃材利用したコース整備は紫の線で表している部分でこのコースは山頂から伸びておりますが山頂を一步離れると直ぐに荒れた山道となり途中の湿原は泥濘となり登山者がそれを避け幾つかの踏み跡が付き湿原の貴重な植物が踏み荒されております（26年度補修工事予定は紫の線を折り返して山頂に戻るコースで青の線で表しております、紫と青の交わる先はまだコースが続き交わった先から2方向に登山道がありどちらも登山道が終了し林道までは5時間程度の歩行が必要です）



今回の作業は、会員の中である程度の体力のある男子会員（土木作業経験は無い）10名が実施（女性会員は昼食などを準備し補助をした）。

期間は6月～10月で月1～2回の延べ日数11日、作業人数は延76人です。

作業現場にまだ残雪が多く残る6月に（6月中旬で3mはある）山頂に置かれている廃材を橇等を利用して、敷設箇所数か所に搬入（残雪期以外は搬入は無理）、雪解けを待ちチシマザサの繁殖している場所に仮置き（ササは強く、一時の仮置きには耐えられ、環境に影響を与えない）して、敷設作業に備えた。

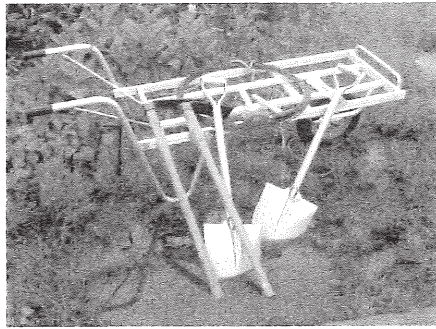


廃材の残雪利用の搬送

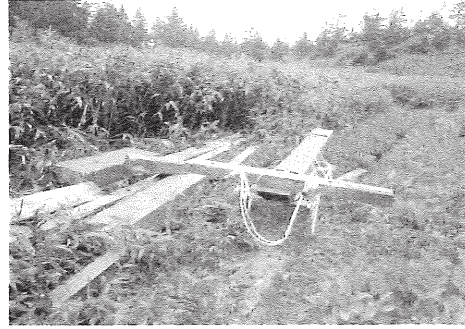


敷設用廃材の仮置き場の一部

敷設作業は、この仮置き場から周辺の敷設箇所へ廃材を搬入することから始まります、



搬入荷車等の準備

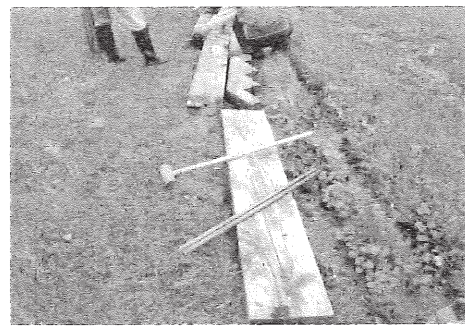


廃材の積み込み

搬入した廃材の敷設箇所を整地し敷設、番線で結束し鉄筋を打ち込み固定します。



結束した廃材と固定用鉄筋



作業風景（番線による結束）



作業風景（廃材の固定）



作業風景（杭打ち込み）

このような作業を繰り返し数十か所に敷設いたしました。



敷設箇所A（約40m）

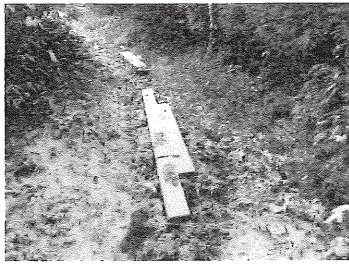


敷設箇所B



敷設箇所C

こうして敷設され泥濘が解決された登山道は「熊」にとっても快適らしく利用されておりました（大笑い・・・）、以下は他の敷設箇所に有った熊の足跡。



敷設箇所 D



敷設箇所 E



敷設箇所 F



敷設箇所 G



敷設箇所 H (手前はスリップの跡)

2. 観察会自然解説の為の統一総合資料

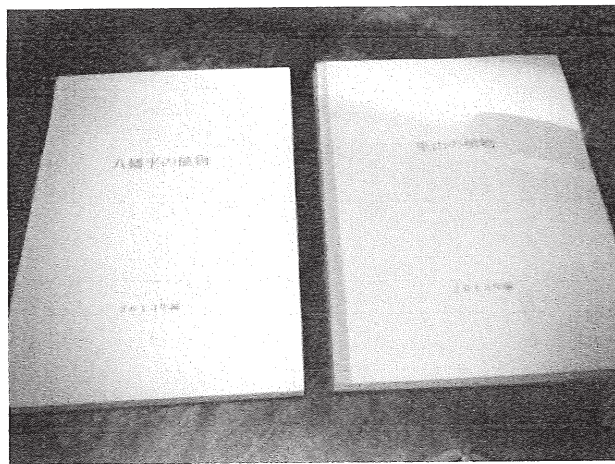
私どもに取って自然観察会は年間の行事の中でも重要な位置を占めます、活動は自然公園財団八幡平支部との共同作業ですが活動日数も25年度実績でも14日と多く（実際は行事前の下見や準備もありますので活動日はその倍以上です）、観察会参加者も平均30名を超え1部行事は抽選を行うほどです。

この観察会での私ども会員が案内役となり参加者の先導と共に自然解説を行うこととなりますがその内容は多岐に亘ります（野鳥・山・火山活動・文化・地誌等々）、ですが特に植物解説は重要な解説となっております、しかし会員総てが共通の知識を得ているかと言えば、「はい」とは言えない現状でもありました。

会員の知識レベルの向上のために共通認識を持つ勉強の「テキスト」の必要は長年の懸案事項であり、今回の助成決定はその念願の懸案の解決ともなりました。

作成しました「テキスト」は2部構成とし、八幡平山頂周辺の高山植物を中心とした「八幡平の植物」150ページ収録植物270種（このテキストは会員の解説用に重要であり、本来→植生保護の為←この種のものには記載してはいけない植物の生えている場所も記載した）と、裾野の植物を中心とした「里山の植物」217ページ収録植物342種（1部八幡平の植物と重複）を各々80部を作成（印刷及び製本は総て手造り）、会員及び関係機関（行政機関・協力機関・関係者等）に配布致しました。

これによって各会員の自然解説は飛躍的に向上いたしました。



「作成したテキスト2部」現物は添付致しました。

3.平成26年度の活動について

今回の助成金は平成25年度と26年度の2年次に亘り活用を予定しておりました、今報告の平成25年度は、今まで述べた通り一部（約半分）登山道整備事業と観察会対応会員知識向上の為の「テキスト」の作成にて終了致しました、平成26年度は25年度に残している登山道補修予定区間（約2km）の登山道整備と裸地化している「めがね沼」及び「鏡沼」等の植生回復事業を助成金の残額（約22万円）を活用することによって実施致します。

今後のご支援もよろしくお願い申し上げます。

以上

平成 27 年度 (http://hinazakura8.blog.fc2.com/ ブログページより抜粋)

2014.06.15 登山道整備①

今日は草の湯分岐～田代沼の登山道整備なので気になる所ですが作業、作業

運搬車を使って資材を運びます



資材↓(水分を含んでいて相当重たい)



まず道を作ります、2本の丸太に板をのせて橋を作る作業



こんな立派な橋が架かりました



運搬車はキャタピラとはいえ、登山道は凸凹、ほんの数日で融雪も進むのでなかなか操作も大変な様子やいのやいの担いで運んだり



難所はみんなで押したり引いたり一苦労ですが、なんだか生き生きと少年に戻ったようで楽しそう(笑)
長い道のりを、何とか予定の場所まで

すると、なんということでしょ～、靴が埋まる程の泥道が



足場ができて歩きやすくなりました！この後、天候が悪化したため作業はここで終了しました。

2014.06.29 登山道整備②

今日は前回の続きで田代沼の登山道整備です。

降水確率 70%ほど、なので今日は午前中だけの作業と決めて濃霧&小雨降るなか移動。。。

本日は5名と少人数ですが少数精鋭のメンバー(自称)

今回の仕事道具たち



見た目よりも重いのですよ、これが作業予定地



その①は雪が残っていたので作業出来ず



その②は板を敷いたあとに鉄筋を打って固定する作業 石を避けてガンガン叩きます、これが大変疲れます(+_+)



固定するとこんな感じです、大雨でも流されないようになったか



なおさりの廃材+倒木した木で木道が完成しました

これからも少しずつ整備していきますのでご協力をお願いします
(広報係)

2014.07.26 登山道整備③

2014.08.10 登山道整備④



2014.09.06 平成 26 年度 植生回復作業

午後から植生回復作業です。多くの方に参加頂きました。

施工箇所はめがね沼(の左目?)

そして日本植生株式会社の方がいらして施工を指導して頂きました。

今日使う植生マット↓これを運びます、1巻き約 17Kg

高齢化のヒナザクラ会には助かります



裸地化した今日の施工箇所



この植生マットは、ヤシの繊維、スギを糸状にしたもの、人工堆肥(他の植物が混入しないように) すべて土に戻ります。国立公園という規制のある場所に合わせた作りになっているとの事です。

マットを敷きます。ポイントは石などを取り除き密着させる事 トントン 竹でできた杭で固定します。



こちらは・・・植物調査中



ここは雪田なので季節という概念がなくなっている



大ぜいなので作業はあつと言う間



「100人のっても大丈夫～夫！！」風



天候が良く作業もはかどり、そして(自称)晴れ女の名誉が保てました

みなさん大変お疲れ様でした、結果が出るまでは時間かかりますが八幡平の自然をじっくり見守って行きましょう。

2014.08.31 平成 26 年度 パークボランティア合同研修会①

(十和田八甲田地区・八幡平地区・南八幡平地区・岩手山地区が合同で行う研修会)

8/30

今年の合同研修会は十和田八甲田地区の方々の担当でした。

研修会会場はこちら、4/20 移転開館の十和田ビジターセンター



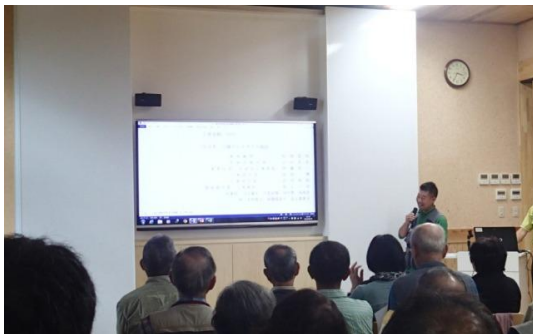
本日の講演は「奥入瀬のコケ」のお話

コケ→ 植物学的にいうコケとは、「鮮苔類」(せんたいるい)と言う。さらに鮮類と苔類に分類
根はなく全身で水を吸う、胞子で増える

続きまして各地区の活動報告、

ヒナザクラ会は見上さんの発表風景↓

研修会終了後はみなさんで記念撮影、



2014.09.01 平成 26 年度 パークボランティア合同研修会その②

8/31

つづいて2日目は奥入瀬溪流を十和田八甲田地区の方々に案内していただきました。

雨も心配されていましたが、日も出てきて丁度良い気温

エビゴケ(鮮類) 先端がエビの触角の様



ホウオウゴケ(鮮類)



ジャゴケ(苔類 タイルイ) 蛇皮の模様



シダの胞子のう



マイナスイオン補充

